

令和3年度事業報告書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

特定非営利活動法人 Oneself

I. 事業総括

今年度は昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大により非常に厳しい1年となり、コロナで生活が困窮する留学生や技能実習生の支援に努めた。

緊急事態宣言や蔓延防止などが発表されるたびに、アルバイト先を解雇されたりシフトが減少する留学生が多い。中には前日の夜中にシフトに入れる学生の氏名が SNS で連絡される等、常に wifi 環境にいなければ仕事の有無さえわからないという声もあった。

そういった中で今年度は「学ぶを諦めない」ための「やどかり給付型奨学金プログラム」と「働くを諦めない」ための「やどかりのがっこう」という大きな事業を2つ新たに企画・運営した。

「やどかり給付型奨学金プログラム」の趣旨・目的は2020年からの新型コロナウイルス感染症によって卒業生が母国に帰国できないだけでなく、在校生は学校の授業がオンラインに変更され十分な授業時間や内容が補償されていないところもあることや2020年7月の日本語能力試験が中止になり、日本語レベルを証明する方法がなくなったため、留学生の多くは進学や就職のタイミングを失ってしまった留学生が多くいた。

一方で、進学を希望する留学生からは「試験に合格しても学費が払えるかわからない。」「入学金の納付期限があるのにアルバイトが減らされて払えるかわからない。」という切実な声が多く聞かれた。そこでこれらの課題を解決するためにコロナで困窮する留学生を対象に給付型の奨学金を支給した。留学生が健全に勉学に励むことができる環境を提供し、コロナ禍でも「学ぶ機会」を失わない支援が必要であると考えたためだ。実績のないプログラムだったにも関わらずクラウドファンディングや新聞記事での寄付呼びかけに多くの支援が集まり、今年度は6名の奨学生を輩出した。

「やどかりのがっこう」の趣旨・目的は新型コロナウイルス感染症拡大によりアルバイト先の解雇やシフトの減少、及び技能実習受入企業からの雇止め等の影響を受けた外国人の生活再建を目指すためだ。

また新型コロナウイルス感染症拡大とあわせてミャンマー等国の情勢が不安定であることから、帰国が難しいケースもある。そういった方々を対象に「食べる・住む・働く」の総合的な支援を企業等と連携し実施した。食糧品支援と住居支援は昨年度からの事業継続で行ったが、今年度は新たに休眠預金を利用した助成金に採択して頂き、就職活動の支援に最も力を入れた。支援をする中で就職が決定し「やどかりのがっこう」を終了した方もいたが、新たに課題を抱える方を紹介してくれたり、サポートする側にまわって同事業を支えてくれる方もいたので非常に心強かった。

今年度実施した2つのプログラムはいずれも行政や企業等の連携なくしては実施できなかったことで、法人設立8期目にして幅広い連携が取れるようになったことは団体として大きな一歩だったと感じる。今回の事業で得た連携先や支援方法、留学生や技能実習生の声を来年度以降の事業に役立てたい。そして今年度よりも多くの対象者支援を行いたいと思う。

来年度は外国人の新規入国が緩和されることもあり、新たな留学生や技能実習生が来日することが考えられるが、学校には通えるようになったがアルバイトに就けないという声が出るのが想定される。今年度と同じように食糧品支援が必要なケースもあると思うので、引き続き支援が続けられるように関係各所との情報共有を行い、孤立化することがないように団体として活動を続けていきたいと思う。

Ⅱ. 組織運営

Ⅱ-1 会員数

- ・正会員…17名（個人）
- ・賛助会員2名 団体賛助会員1団体

Ⅱ-2 理事会及び定例会の開催

- ・総会 5月に開催
- ・理事会 団体の運営方法及び事業に関する会議 状況に応じて開催
- ・定例会 理事及び正会員で事業に関する進捗報告及び意見交換を状況に応じて開催



*新型コロナウイルス感染症拡大により、総会是对面で行ったが、それ以降の理事会や定例会は対面で参加できる会員のみで行ったり、オンラインを使用して実施した。

Ⅲ. 特定非営利活動に関わる事業報告

◆Oneself 明舞日本語教室

実施日：毎週水曜日…2021年6月17日(水)10:00~11:30

場所：みなく一る明舞（明舞麒麟堂薬局2階）

学習者：8名

担当者：日本語教師：1名・ボランティア3名



【実施内容】

令和3年度も新型コロナウイルスの影響を受け、授業日数の削減を行ったが参加する学習者は少人数にとどまった。スタッフと相談し、学習者が積極的に発話できる会話中心の授業作りを試みるようになった。分かりやすい話題や活動を選んだ結果、家族の話、中国と日本の文化や医療・福祉制度の違い等予想以上の発話の量に驚かされた。昨年からはじめたラジオ体操や認知症予防の脳トレーニングに挑戦するなど、スタッフの力を借りて充実した1年であった。

◆技能実習生・特定技能外国人向け日本語教室

実施日：毎週日曜日 10：00～12：00

場所：国際交流シェアハウスやどかり多目的ルーム

学習者：12名（ベトナム・ブータン・フィリピン）

担当者：日本語教師3名（ローテーション）

統括1名



【実施内容】

JLPT合格を目指したカリキュラムにし、語彙・漢字・文法・読解・聴解をすべて授業内で取り入れた。社会人がほとんどなので平日はJLPTの学習をする時間がなかなか取れないという話があったため、時間内にポイントをまとめた解説を基本とした。

N3に合格すると月給が上がるという学習者もいたため、指導ポイントについては誤用訂正や間違いやすい箇所を特に重点的に取り上げた。

その結果、4名がN3に合格した。また同クラスについては埼玉工場に転勤した学習者もいたが、コロナ禍でオンライン授業に対応していて指導方法に慣れている講師がいたことから、転勤と同時にオンラインクラスも開設した。

【異文化交流事業】

◆「青空図書館～ヒューマンライブラリー～」

実施日時：2021年11月13日（土）10：00～12：00

実施場所：ノエビアスタジアム神戸芝生広場

参加者：3名 スタッフ1名

【実施内容】

ベトナム・モンゴル・ブラジルの3か国の母国紹介

兵庫区みらい会議から生まれた同イベントは兵庫図書館が主体となり企画運営をされた。その中で国際交流シェアハウスやどかりのブースとして外国にルーツを持つ3人に母国紹介や自身の故郷について紹介してもらう「ヒューマンライブラリー」に参加した。人を本に見立てて話をするということから「わたしもくじ」をあらかじめスタッフとミーティングをして作成。それに沿って当日は話を進めることにした。ヒューマンライブラリーを担当するブラジル人の方から「同じ話を何回もするんですか。」と聞かれ「何回もするのは飽きるし、大変。」と言っていたので、話を聞いた方々からの感想や「ありがとう」の気持ちが目に見えるようにするため、それぞれにシールが貼れる台紙を作った。「あなたの国へ行ってみたいくなりました」という人は暖色系のシール、「あなたの話はとても興味があって楽しかったです」という人は寒色系のシールを貼ってもらうようにした。すると当日は3人がいかに多くのシールが集められるか、それぞれが工夫しながら話を進めていった。ベトナムの方は途中で自分から散策している人に「ベトナムのお話を聞いていきませんか。」と声をかけ、積極的にイベントに参加をしていた。最初はブースに人がほとんどおらず、日本人からなかなか声がかげづらい時間帯もあった中で、3人がそれぞれの母国文化の紹介に自信をもって取り組んだことで、後半はブース内に入るスペースもないぐらい人でいっぱいになった。「自分達の文化にこれだけ多くの方が関心を持ってくれたことが嬉しかった。」と3人とも大変有意義な時間が過ごせたようだ。



◆「やどかりワクワクキッチン
～ブラジル人ママのパン教室～」

実施日時：2021年11月20日（土）
10：30～13：30

実施場所：国際交流シェアハウスやどかり
多目的ルーム

参加者：10名・スタッフ2名



【実施内容】

国際交流シェアハウスやどかりで月に1回開催

している子ども食堂の方々と一緒に企画したイベントで、子ども食堂に来られている親子連れを対象に外国にルーツを持つ方が自身の得意な料理や母国料理の作り方を教える。1回目はブラジルの方が得意なパン作りを教えてもらった。新型コロナウイルス感染症への配慮としてボウルの中で材料を混ぜ合わせるではなく、1人1人に小分けにした材料が配られ生地を練る作業は各自で行った。そのため最後まで自分が丸めたパンがどれかわかるようにしておき、みんなと一緒に作りながらも感染症対策を講じる事が出来た。また講師のブラジル人の子どもと参加者の子どもが日本語が通じない関係性であったが一緒に遊んでいて「日本語でやりとりができないのにどうやって意思疎通しているのか不思議。」「子どもと一緒に遊んだらみんなお友達っていう感覚で大人よりも多文化共生に優れている。」と参加した大人が驚く一面もあった。

◆キッチンカーフェス in みょうだに

実施日時：2021年11月21日（日）
11月23日（火）13：00～15：00

実施場所：大丸須磨店前の広場

参加者：14名・スタッフ3名

【実施内容】

大丸須磨店から「キッチンカーフェス in みょうだに」に参加依頼があり、初めて留学生と一緒にした。

21日はお天気も穏やかだったので、わなげ・シャボン玉・すまぼう（須磨区のキャラクター）を折り紙でつくるブースを

ミャンマー人留学生5名と参加して楽しんだ。「やどかり給付型奨学金プログラム」のポスターも展示した。中にはポスターを読んでもくださり御寄付をしてくださる方もいてとても嬉しかった。

23日は荒天で風は強く寒くて大変だった。モンゴル人留学生が馬頭琴を演奏してくれたが「手がかじかむと演奏ができない」と困っていて屋外イベントや内容の難しさを感じた。

モンゴル人留学生のほかに、ミャンマー・ベトナムからの留学生が参加、また「やどかり給付型奨学金プログラム」に参加していた日本人大学生インターンもサポートにかけつけてくれた。

大丸須磨店からも風船を70個提供してくださり、子どもたちとの会話のきっかけを作ってくださった。また馬頭琴の演奏会2回目はさらに暴風となったため、急遽店内の3Fに演奏スペースを作ってくださった。演奏する留学生も「ここなら大丈夫」と演奏会の前にモンゴル文化や母国の紹介等もしてくれた。また23日も「やどかり給付型奨学金プログラム」への御寄付としてチャリティーグッズを購入してくださる方もいらっしやった。これからも留学生と一緒にいろいろなことに挑戦したいと思った。（正会員N）



◆子どもフェスタ in 和田宮さん 2021

実施日時：2021年12月12日（日）11：00～15：00

実施場所：和田神社

参加者：6名・スタッフ1名

【実施内容】

午前中は「やどかりのがっこう」に参加しているミャンマー人留学生2名・午後は「やどかり給付型奨学金プログラム」に参加したベトナム人・ミャンマー人留学生4名と参加した。また国際交流シェアハウスやどかりに住んでいるベトナム人技能実習生が参加。スーパーボールすくいにはベトナムにもあるようで「子どもはこの遊びが好きですね。」と技能実習生もにこにこ笑っていた。



12日はお天気に恵まれ温かい1日だった。大きなボールを子どもたちが一丸となってすくおうとしているのを見て「頑張れ！」と留学生達が声をかけ、周りのお店よりもひと際にぎやかなブースになった。スーパーボールすくいの売上金13150円は当団体の運営資金にと御寄付を頂いた。

留学生や技能実習生にとって地域の子もたちと交流ができるこの事業はかけがえのないものであり、やどかりとしてもまた実行委員会の一員として同事業に携わることができるよう頑張りたいと思う。（理事長）

◆「やどかりワクワクキッチン

～中国人留学生による豚饅頭と水餃子教室～

実施日時：2022年1月29日（土）

10：00～13：00

実施場所：国際交流シェアハウスやどかり
多目的ルーム

参加者：15名・スタッフ2名



【実施内容】

旧正月前なので中国人留学生が講師となり、子ども食堂に来られている方々と豚饅頭と水餃子の作り方を教えた。3名とも普段からよく作っている料理なので本やレシピを見ることなく仕込みをする姿に参加者の方々は興味していた。特に皮から豚饅頭を作ることはほとんどないので、豚饅頭を作りたいという方が多かった。基本的には同じような材料を使うが、餡に粘りを出すために手ではなく菜箸でかき混ぜるようにして粘りを出すのが中国の一般的なやり方であることに驚いていた。水餃子は豚ひき肉の他にもエビを細かくすり身になるまで包丁でたたいて餡に加えたり、ニラは餃子を包む寸前で切って混ぜることで茹で上がった時の香りを楽しむことができる等、材料を切るタイミングや大きさなどに非常にこだわりがあることがわかった。餃子や豚饅頭を包む作業では、皮を作るところからだったので、全員でワイワイと体験した。小さな子どもさんでも何度か体験するとコツがわかるようで上手に皮を作っていた。時々、留学生が手を添えてサポートする等、参加者一丸となって皮づくりに取り組んだ。

コロナ禍でさまざまな行事が中止される中、子ども達にとって非日常的な体験ができたことはとても良かったと思う。また留学生にとっても学校がオンラインになり、部屋に1人であることが多くなり寂しいという声もあったので今回の料理教室は双方にとって大きな意味があったと思う。

◆「ミャンマーってどんな国!?!」

実施日時：2022年3月26日（土）

10：00～11：30

実施場所：こうべまちづくり会館

2F ホール

参加者：27名



【実施内容】

ミャンマー人留学生から同国について日本人に

もっと知ってほしいのでイベントを実施したいという声が上がったため企画・実施した。ミャンマー国内のことはなかなか海外では情報を得ることが難しかったため、留学生から生の声を聞きたいという参加者が多く集まった。留学生自身がそれぞれ出身地の景勝地や食べ物、民族衣装について紹介をしてくれた。その後は参加者からの質疑応答に対応してくれた。

【定住外国人雇用自立支援事業】

◆国際交流シェアハウスやどかり

事業開始日：2015年7月1日

事業所所在地：神戸市兵庫区中道通 2-2-11

今年度も同事業所を使用しながら新たな事業に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受けながらも積極的な活動を心がけた。各事業の詳細を以下にまとめた。

【新型コロナウイルス感染症拡大による留学生・技能実習生支援事業】

◆やどかりフードドライブ（食料品寄付を募る）・やどかりフードマルシェ（食料品提供）

2021年4月～2022年3月

助成先：ひょうご支え合い基金

年間協力先：コープこうべ・フードバンク関西・兵庫区社会福祉協議会

寄付：個人、企業

令和3年度は「ひょうご支え合い基金」から20万円の助成を受けて事業を継続していたが、事業の認知度が上がったことで来館する留学生も増え30人近くになる月もあり、助成金事業のみでは活動が続かないと判断し、企業や個人の方からの食料品寄付を定期的に募った。

そんな中、SNSや取材して下さったサンテレビの報道番組を見て物品寄付をしてくださる方が増えた。現在は淡路島から有機野菜が届いている。そしてやどかり近くにあるフレンチレストランのシェフからはガーリックトーストとスープが届くようになった。

イスラムやヒन्दウー教の学生も来るようになり食材の調達も大変になっている中、野菜の提供はとてもありがたい。そのほか、コープこうべ、フードバンク関西、兵庫区社会福祉協議会からも定期的に寄付を頂けるようになり同事業を支えてもらった。

今年度は食糧品提供を受けた留学生に細かいヒアリングを行い、アルバイトの有無やシフトの回数や時間数を確認した。また現在通っている学校（日本語学校や大学、専門学校）を卒業後に考えていることについて聞いた。多くの留学生はこのまま日本に残って仕事がしたいという声が多かった。しかし「進学したいが学費の捻出がで

きないため働くしかないと思う。」という声も多かった。そういった場合は希望する業種や勤務地について考えられていないケースも多く「やどかりのがっこう」へとつなげ、介護や建設の座学の参加を促した。インターンシップに参加すると自身の向き不向きがわかったり、新たな業種への関心等にも広がり、秋以降は「やどかりのがっこう」に参加を希望する留学生や特定活動ビザの学生が増えた。食糧品提供で終わらず、その後への支援と繋げられたので、インターンシップ費で生活が再建でき、食糧品提供を受けずに済むようになったという留学生もいた。



◆やどかり給付型奨学金プログラム

〈事業趣旨〉

留学生は週に 28 時間までアルバイトが可能な「資格外活動許可」を持っているが、日本語学校の学費支払いと進学先の入学金支払いが重なる「2 年生の秋」は多くの留学生が生活費が足りず厳しい状況におかれる。中には資格外活動許可の範囲を超えてアルバイトをし、成績悪化や在留資格の取り消し等「学ぶ」ために来日したのにも関わらず「学べない」環境に陥ってしまう。この「2 年生の秋」を支えるために「給付型奨学金プログラム」を設立した。

また 2020 年からの新型コロナウイルス感染症によって卒業生が母国に帰国できないだけでなく、在校生は学校の授業がオンラインに変更され十分な授業時間や内容が補償されていないところもある。

さらに 2020 年 7 月の日本語能力試験が中止になり、日本語レベルを証明する方法がなくなった。留学生の多くは進学や就職時に日本語レベルがどのぐらい必要か、受験要件になっていることが多いため、受験のタイミングを失ってしまった留学生が多くいた。

一方で、進学を希望する留学生からは「試験に合格しても学費が払えるかわからない。」「入学金の納付期限があるのにアルバイトが減らされて払えるかわからない。」という切実な声が多く聞かれた。

そこでこれらの課題を解決するためにコロナで困窮する留学生を対象に給付型の奨学金を支給したいと考えた。留学生が健全に勉学に励むことができる環境を提供し、コロナ禍でも「学ぶ機会」を失わない支援が必要であると考えた。

〈2021 年度給付型奨学金スケジュール〉

募集期間 5. 10~6. 11

一次選考：書類選考（小論文及び日本語学校への出席率）

二次選考：地域活動（留学生版トライやるウィーク）期間：8. 1~8. 31 のうち 2~3 回

三次選考：最終面接 9. 18（土）10：00~地域活動（留学生版トライやるウィーク）

全体振り返り：10 月 5 日（火）14：00~

チャリティコンサートにてスピーチ発表 11. 13（土）13：00~

〈一次選考〉

日本語学校出席率証明書の提出・小論文

〈二次選考受入先〉

神戸トヨペット株式会社

株式会社神戸マツダ

ミズノスポーツサービス神戸和田岬

兵庫図書館

兵庫区役所まちづくり課

国民健康保険課



〈三次選考〉

個人面接



◆やどかりのがっこう（JANPIA 助成）

〈事業目的〉

新型コロナウイルス感染症拡大によりアルバイト先の解雇やシフトの減少、及び技能実習受入企業からの雇止め等の影響を受けた外国人の生活再建を目的とした事業である。

また新型コロナウイルス感染症拡大とあわせてミャンマー等国の情勢が不安定であることから、帰国が難しいケースもある。そういった外国人を対象に「食べる・住む・働く」の総合的な支援を企業等と連携し実施する。

〈事業概要〉

- ①特定活動ビザを取得したもののアルバイトが見つからず、生活費が不足している留学生に対して食料品を無償で提供する。（食糧品支援）
- ②コロナで家賃が滞納し退去せざるを得ない留学生や技能実習生に対して無償で国際交流シェアハウスやどかりの空室を提供する。（住環境の支援）
- ③日本での就職を希望する留学生に対して特定技能ビザに向けた学習環境の提供及び企業や人材派遣会社を通しての就職活動の提供を行う。（就職活動の支援）

〈事業対象者〉

コロナで帰国困難及び進学断念等の理由がある留学生及び技能実習生、その他事情のある外国人。

事業対象地域は神戸市だが宿泊設備が併設されているので他県から神戸市に転居も可能。

〈事業内容〉

特定技能ビザ取得に向けた試験を受験し合格するために、平日午前中4コマは日本語指導を行う。

午後から曜日によって介護・建設とそれぞれ学科指導及び実技指導を行う。

また実際の企業にインターンシップとして就業体験に参加する。(参加時にインターンシップ費を支払う)

支給したインターンシップ費は食費や生活費に自由に使うことができる。

〈インターンシップの様子〉

建設クラス



介護クラス



農業インターンシップ

